

令和4年度 学校自己評価システムシート(埼玉県立羽生高等学校)

目指す学校像	主体的に学ぶ力と豊かな人間性を育成し、地域に開かれた学校づくりを推進する。
--------	---------------------------------------

※ 学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 生徒個々の能力や適性を把握し、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、基礎学力の定着に努める。 生徒の進路意識を高めさせ、進路実現を促す指導を推進する。 生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、社会性を培い、規律ある明るい校風づくりを推進する。 学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報活動の一層の充実に努め、地域の生涯学習機関として貢献する。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	4名

学 校 自 己 評 価				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
年 度 目 標		年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		達成度	次年度への課題と改善策		
番号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況		
1	「学び直しと自立の支援」に向け、教員は丁寧で寄り添う指導を日々実践している。多様な背景を持ち、入学前に一時的なつまづき等の経験をもつ生徒たちの多くが、教員の指導の下、学校生活に誠実に取り組み、学力を高めようと努力している。新教育課程等今年度から始まる取組を生徒の基礎学力の定着や学習意欲の向上につなげるよう軌道に乗せるとともに、多様な生徒への対応が一層求められる。	・共通理解に基づいた新たな取組の実践と多様な学びを支える体制づくり	①教育課程委員会と各教科が連携し、新教育課程や観点別評価の実施状況を共有するとともに、課題の洗い出し等を行う。その上で、より効果的な指導方法や課題の解決策を検討する。 ②新設した情報管理部を中心に、生徒の多様な学びを支えるため、ICT環境の整備を進める。 ③県教育委員会の諸事業を活用し、多様な生徒を支える体制づくりを進める。	①新教育課程や観点別評価に係る課題を解決し、新教育課程等に対する理解を学校全体で深めることができたか。 ②ICTを活用した授業実践やHR指導等の事例が前年度より増加したか。また、生徒一人端末一台等今後のICT活用を見据えた取組や環境整備を具体的に進めることができたか。 ③昨年度と比較し、より多くの授業や場面で事業を活用し、生徒の学びを支えることができたか。	①新教育課程については、各教科の適切な準備により、円滑に導入・実施をすることができた。また、観点別評価については、教育課程委員会と各教科が連携して課題の洗い出しを行い、具体的な対応について共通理解を深めた。 ②ICTを活用した授業実践は、約80%の教員がGoogle Classroomを活用するなど、前年度より増加した。また、生徒一人一台端末整備の円滑な実施に向け、プロジェクトチームを編成し、年間を通じて18回(1/16時点)にわたる会議を開催し、諸課題に対して機動的に対応することで、必要な取組を計画的に進めることができた。 ③県教委の事業を活用し、学習サポーターを3名採用し、多文化共生推進員2名が配置されたことで、昨年度と比較し、昼間部夜間部それぞれにおいてサポート体制が充実し、多くの生徒の学びを支えることができた。	A	・生徒一人一台端末の実施に伴う成果や課題を学校全体で適宜共有し、より効果的な活用方法や指導方法を教科や年次、分掌で検討する。 ・新教育課程及び観点別評価については今年度の成果を踏まえつつ、引き続き生徒の主体的な学びを引き出し、学力向上に結びつこう、全ての教職員が共通理解の下、指導する体制を整える。
2	進路実現に向け、主体的に行動することが苦手な生徒が多い状況を改善すべく、年次や進路指導部が様々な取組を進めている。引き続き生徒の状況を踏まえつつ、外部機関等と連携しながら、その取組がより良いものとなるよう、更なる充実や改善を進める必要がある。	・生徒一人ひとりの進路意識の向上と進路希望の実現	①生徒にとってより効果的な進路指導となるよう、年間指導計画の見直しを進める。 ②進路指導部と年次が連携してキャリア・パスポートの更なる活用を進める。 ③「総合的な探究の時間」の内容や実施方法の充実を図り、自ら考え、行動する力の育成につなげる。 ④就職支援アドバイザーを活用し、進路行事の充実を図るとともに、就職希望の生徒により具体的で、適切な支援を行う。	①生徒の状況や外部機関との連携の見直しを考慮した年間指導計画を策定し、それに基づき進路指導を行うことができたか。 ②キャリア・パスポートの活用事例を蓄積し、より効果的な活用に向け、学校全体で理解を深めることができたか。 ③複数年次を対象に「総合的な探究の時間」を実施し、それぞれの年次にふさわしい教育プログラムを策定・実施することができたか。 ④就職希望者の内定率が100%となったか。	①若者サポートステーションによる直接の支援事業はなくなり、一部年間指導計画を見直したが、連携機関として関係を維持した。また、ハローワークとの連携も昨年以上に強化し、生徒個々の状況に応じた支援の充実を図った。 ②キャリアパスポートを活用した指導を年間を通じて行うとともに、年度末に進路指導部が活用事例を収集し、学校全体で共有を行う。 ③「総合的な探究の時間」プロジェクトチームが中心となって、指導計画を作成し、年間を通じて円滑に授業を実施することができた。 ④就職希望者の内定率は1/6現在で約70%となっている。進路指導部と年次が連携し、生徒一人ひとりに対して、きめ細かい指導を行うことができた。	A	・キャリア・パスポートについて、引き続き活用事例の蓄積を進め、進路指導部と年次が連携して、効果的な活用方法の検討を進めていく。 ・「総合的な探究の時間」の実施について、今年度の成果をふまえ、新形態2年目の年間プログラムを早期に策定する。
3	不登校をはじめとする様々な課題を抱えた生徒をしっかり支えるべく、年次と教育相談部、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等が連携し、様々な支援を行っている。相談体制を支えるスタッフの変更にも左右されることなく、継続性をもった支援を組織的に行う必要がある。	・教育相談体制の継続と支援活動の充実	①今年度新たに着任するスクールソーシャルワーカーとの連携を密にし、新たな相談体制を早期に確立することで、安定した支援を継続する。 ②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学習サポーターと連携し、組織的・継続的に生徒・保護者の支援を行う。 ③特別支援教育コーディネーターによる訪問支援や学校全体での情報交換会を通じて、特別支援教育の視点から生徒の行動や指導を捉え直すなど、より深い生徒理解に学校全体で取り組む。	①昨年度から継続性のある支援体制を確立し、支援を必要とする生徒・保護者に対して、適時適切な支援を行うことができたか。 ②相談室だよりを月初めに発行し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学習サポーターの相談日程等の有益な情報提供を保護者に行うことができたか。 ③特別な支援が必要な生徒に対して、十分な相談体制を構築し、支援ができたか。	①年度当初から夏休みまでスクールソーシャルワーカー不在の状態が続いたが、教育相談部と年次が連携し、様々な困難を抱える生徒に対して適切な支援を数多く行った。また9月からスクールソーシャルワーカーが教育相談室での対応を開始し、新たな体制が整いつつある。継続的な支援が必要な生徒や保護者に対して、組織的に適切な対応を多く行うことができた。 ②相談室だよりを毎月発行し、スクールカウンセラー等のメッセージや相談日程等を掲載するなどして、必要な情報提供を適切に行なった。 ③特別支援教育コーディネーターによる支援を年間を通じて4回、また生徒情報交換会を年2回実施、さらにケース会議を3回開くなどして、特別な支援を必要とする生徒に対して積極的な支援を行った。	B	・教育相談に関する校内の情報共有の在り方について、見直しが進められている。教育相談部を中心に、より効果的な情報共有の在り方について検討を進める。 ・今年度スクールソーシャルワーカーの勤務日数が、昨年度と比較して大きく減少した。県教委に本校の現状を伝え更なる支援をお願いするとともに、学校として支援体制を少しでも強化できるよう検討を進める。
	新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況が続いている。安心安全な学校生活の実現に向け、感染状況に適切かつ柔軟に対応することが求められる。また、生徒指導上、SNSによるトラブルの増加が懸念されることから有効な対策が求められている。	・感染状況への適切かつ柔軟な対応と啓発的な生徒指導の推進	①マスクの着用や日々の検温の徹底等、従来への適切かつ柔軟な対応と啓発的な生徒指導の推進 ②本校生徒の実態に即した、効果的・具体的なSNSに関する指導を、日々の生徒指導と授業の両面から実施する。	①校内での感染を防ぎ、安心安全な学校生活を実現することができたか。 ②SNS等を原因とする生徒間のトラブルが減少したか。 ②授業「コミュニケーション」を通じて、生徒が情報リテラシーを向上させることができたか。	①県教委の通知に基づき、適切に対応するとともに、マスク着用など基本的な感染対策を進めたことから、校内での感染が疑われるケースは発生しなかった。修学旅行や文化祭の一般公開も実施することができ、教育活動の充実が図られた。 ②今年度新たに開講した授業「コミュニケーション」では、本校生徒の状況を踏まえた独自の教育プログラムを作成し、様々な演習を取り入れた授業を年間を通じて実施したことで情報リテラシーを向上させることができた。また日常の指導においても、適宜SNSの危険性やネットトラブル防止等に関する指導を行い、SNSに関する講演会も実施した。SNSを原因とする生徒間のトラブルは昨年度と比較し、減少傾向が見られた。	A	・新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないため、引き続き県教委の通知に基づき、学校全体で適切な対応をとる必要がある。 ・生徒一人一台タブレット端末が導入され、今まで以上に情報リテラシーやモラルが求められる。年次や生徒指導、教科指導など様々な場面でより良い利用に向けた取組を推進する。
4	教務部を中心に、日々の教育活動をホームページを通じて積極的に発信している。新型コロナウイルスの収束が見通せない中、今年度から始まる新教育課程等の新しい取組について、保護者等の理解を得るため、ホームページを中心に積極的に発信していく必要がある。また、地域の生涯学習機関としての役割を果たすため、感染状況を見極めながら、可能な限り公開講座を開講する。	・ホームページの発信内容の充実と新たな発信手段の検討 ・安心安全に配慮した公開講座の実施	①日々の学校生活の様子を適宜ホームページで発信するとともに、今年度の新たな取組についても積極的に発信する。 ②アフターコロナを想定して、インフォメーションディスプレイを活用し、保護者をはじめとする来校者への情報発信の在り方を検討するとともに、試行的運用を行う。 ③感染状況を踏まえつつ、公開講座等を可能な限り開講する。	①今年度の新たな取組や日々の教育活動を積極的に発信することができたか。また、ホームページの更新数とアクセス数が増加したか。 ②インフォメーションディスプレイで発信すべき内容を整理し、次年度の本格的運用に向け、準備を整えることができたか。 ③年間を通じて、複数の公開講座を開講し、地域の生涯学習機関としての役割を果たすことができたか。	①日々の教育活動をはじめとして様々な情報を積極的に発信した。ホームページの更新回数は、156回(4/1~1/9、昨年同期131回)、アクセス数は142,128(4/1~1/9、1日平均約500)あった。また、今年度から始まった新教育課程の授業についても積極的に発信し、4月以降13回にわたって授業の様子を掲載した。 ②インフォメーションディスプレイを積極的に活用し、様々な情報発信を行うとともに、本格的な運用にむけた体制作りを進めることができた。 ③今年度も羽生市と連携して、特別講座や公開講座の募集を行った。今年度の実績として、前期特別講座4講座開講し受講者64名、後期特別講座3講座開講し受講者40名、夏季公開講座8講座開講し受講者49名であった。	A	・新教育課程開始2年目であることから、今年度同様新たな授業の様子を積極的に発信していく必要がある。引き続きホームページによる情報発信を強化していく。 ・インフォメーションディスプレイの本格的運用を早い段階で開始し、学校全体でより効果的な活用方法を検討する。 ・地域の生涯学習機関として貢献するため、引き続き羽生市との連携を密にする。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日：令和5年2~3月	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・ICTを活用した教育はかなり充実していると思う。今後全教員がGoogle Classroomを使えるようになることよい。 ・新設の情報管理部の取組により、教員の授業におけるICT活用が活性化され、生徒の端末活用スキルの向上や多様な生徒への個別最適化が図られていることは興味深く、今後も情報管理部が機能し、より一層の教育効果が期待される。 ・学び直し、日本語を十分に理解できない生徒に対して、丁寧に対応している様子がうかがえる。 ・授業でタブレットを使用する機会は増えたと感じるが、授業全体としてはまだ少なく感じる。	・キャリアパスポートの活用は、生徒個々の様子を共有できることから、進路指導において積極的な活用をさらに進めてほしい。 ・生徒の実態に応じた進路指導が計画的に進められ、生徒に寄り添った指導が展開されていると推察できる。 ・ハローワークとの連携等の強化を図っていくことは大事なことである。 ・卒業後の進路内定100%が望ましいが、卒業後の進路が未定であっても、「自分を見つめ直す」時間として、「自己肯定感」を養うことも大切である。 ・キャリアパスポートについて、目標を立てることや学校生活の振り返りに活用できていて良い。 ・総合的な探究の時間では、社会に必要なことや新しい考えを知ることができた。
・SSWの配置や教育相談部の取組は並々ならない支援体制を構築されていると考えられる。重点として取り組んでいる体制は、生徒・保護者の安心感につながり、近隣の中学校からしても有り難いのではないかと。 ・コミュニケーションの授業を実際に見たが、授業内容も素晴らしいと感じたが、何より先生が一人ひとりの個性をしっかりと把握しており、個々に応じた授業作りをしている様子がうかがえた。このことは羽生高校の強みだと思う。 ・様々な困難を抱える生徒支援の他に、保護者・市民への「教育講演」等で、羽生高校の特色をアピールしてはどうか。 ・相談室を時々利用しているが、悩みを聞いてもらうことや相談することができるので心の拠り所となっている。 ・コミュニケーション、ネットリテラシーの授業は、他の生徒の意見を聴き、新しいアイデアをもらえるので良いと思う。	・学校における情報リテラシーの向上がトラブル減少につながっていると思われる。 ・コロナ禍の中で、生徒が学校を支えて学校の原動力となって活躍している様子がうかがえ称賛したい。先生方をはじめとする関係者の努力や工夫の賜であると感じる。 ・アフターコロナにおいて、長らく顔を会わずにコミュニケーションをとってきた生徒において、新たな人間関係形成上の問題が生じてくることが予測され、次年度の課題と言える。
・ホームページの更新が積極的で勢いを感じる。また、学校での様子も把握しやすく、内容からも教員が生徒一人ひとりのことを大事に考えていることが伝わってくる。 ・公開講座は素晴らしい取組であり、地域や行政との連携も素晴らしい取組である。 ・不登校をはじめ様々な課題を抱えた生徒や保護者の成長や心情を伝え、羽生高校の特色を積極的にアピールしてはどうか。 ・ホームページにも教科の情報を掲載すると良いのではないかと。 ・募集人員がさらに増えるよう、中学生やその保護者に伝わる情報発信や学校PRを模索して欲しい。	